

# 第1回 鍼灸師のための漢方診療講座

## 講師プロフィール

<p>新潟医療福祉大学教授 東京女子医科大学名誉教授 医師</p> <p>佐藤 弘</p>	<p>これまでに日本東洋医学会会長や日本東洋医学サミット会議議長などを歴任してきました。また女子医大では医師、医学生、鍼灸師の、現在は医療系大学生の教育に携わっています。教育の中で、学・術はもちろんのこと医療人としてのあり方が重要だと感じています。本講座では先人たちの言葉を紹介しつつ、医療人として必要なことを述べたいと思います。</p>
<p>東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 医師・鍼灸師</p> <p>津嶋 伸彦</p>	<p>泌尿器科医として研鑽を積んできました。鍼灸師の資格も持ち、当研究所では漢方外来と鍼灸外来の両外来を担当しています。本講座では漢方医学の歴史について、漢方と鍼灸の歴史的背景の違いなどにも触れつつお話しします。東洋医学には様々な流派が存在しますが、当研究所は日本東洋医学会の指定研修施設であるため、今回はこのような立場から述べたいと思います。</p>
<p>東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 医師</p> <p>大谷かほり</p>	<p>『一次から三次医療まで、新生児から40代以上まで、全身診る』がモットーの小児科で研鑽を積みました。今でこそ全世代を漢方的に治療し後進育成に関わっていますが、当時はセミナーや本で勉強しても、漢方の事はさっぱり掴めませんでした。訪れる研修希望者は皆、同じ悩みを口にします。少しでも「？」が「！」になるお話が出来ればと思います。</p>

### 〈本講座のねらい〉

鍼灸師が患者さんに適切な漢方治療を提案するには、漢方診療に直接関連した知識だけ学べばよいわけではありません。学ぶ上での心得や漢方の歴史的背景について知っておくことも大切です。その後、漢方診療における診断と治療について解説し、第2回の講座へと繋げたいと思います。

コーディネーター  
東京女子医科大学附属東洋医学研究所  
所長・教授 木村 容子

# 第2回 鍼灸師のための漢方診療講座

## 講師プロフィール

東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 医師  森永 明倫	一般内科、心療内科の診療経験を基に、東洋医学の「心身一如」の観点から、身体症状、精神症状ともに西洋医学と東洋医学の適切なバランスを考えながら診療を行っております。また薬物療法だけでなく、食事、運動、睡眠を含めた生活習慣の重要性もお話しております。担当する「漢方診療の実際・生薬篇」では、生薬についてわかりやすく解説していきます。
東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 医師  宮川 亨平	小児外科医として研鑽を積んできた経験を生かし、子供から大人まで幅広い世代の方々に漢方診療を行っています。診療を行う際には、医療人として必要なことを常に意識することが大切と感じています。われわれがどのような事を常に意識しているのかを知ってもらうため、講義前のガイダンスでは当研究所の診療方針についても解説したいと思っています。
東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 医師  田中香代子	腎臓内科、一般内科を経て、漢方診療を行っています。西洋医学的な病態も考えながら、より患者さんの症状に対してアプローチできる東洋医学の治療に魅力を感じつつ、漢方薬に診療を助けてもらっています。担当する「漢方診療の実際・診察篇」では、実際に行っている診察をご紹介します、所見から処方する漢方薬をイメージしやすいようなご説明ができたかと思っております。
東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 医師  陣内 厚子	東京女子医大東医療センター等で内科研修後、漢方外来を行なっています。更年期や月経関連症状の相談を特に多く受けています。実家が漢方薬局のため幼い頃から漢方薬を飲んで育ち（胃腸虚弱や喘息など）、現在は3歳息子の風邪や便秘にも使用しています。漢方理論を学ぶことで、自身や家族の体調管理にも役立っており、それを少しでも伝えていきたいと思っています。

### 〈本講座のねらい〉

第1回の講座で得た知識を本講座を通じて深めていただきます。

コーディネーター  
東京女子医科大学附属東洋医学研究所  
所長・教授 木村 容子

# 第3回 鍼灸師のための漢方診療講座

## 講師プロフィール

証クリニック 総院長 医師  伊藤 隆	現在、日本東洋医学会会長、日本東洋医学サミット会議議長を務めています。東アジアの伝統医学は大きく漢方と鍼灸により構成されていますが、日本国内では漢方診療を行う医師と鍼灸師の連携は不十分です。私は、電気温鍼と連続輸刺という手技を漢方処方時の判断基準として用い、鍼灸師との連携を図ってきました。今回は本連携方法を中心にお話ししたいと思います。
東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 鍼灸師  蛸子 慶三	鍼灸師の資格取得後は、漢方診療を行う指導医のもとで鍼灸の臨床、研究、教育に携わっています。当研究所における鍼灸師を含めた医療連携について解説し、医師と連携するために実践していることを具体的にお話ししたいと思います。鍼灸師が漢方診療を行う医師と連携する意義は大きいです。何かひとつでもヒントになることがあれば幸いです。
東京女子医科大学 附属東洋医学研究所 鍼灸師  スタッフ一同	当研究所漢方外来に併設している鍼灸外来に勤務する高田久実子（めぐり鍼灸院）、辻恭子（はりきゅう府中杏寿堂）、水野公恵（南大塚はり灸指圧治療院）、母袋信太郎（フィット鍼灸整骨院・国領）、溝口香絵（溝口鍼灸院）による鍼灸実技供覧を行います。全体の虚実を基準とした漢方処方と鍼灸刺激量の関係性をご理解いただけたらと思っています。

### 〈本講座のねらい〉

漢方や鍼灸には多くの流派があり、それぞれに優れた点があります。ところが、見解の相違によりお互いに理解が進まないことが少なくありません。

本講座では、漢方診療を行う医師と鍼灸師の具体的な連携方法を提示してもらいます。この方法を用いることを強制するわけではありません。鍼灸師が医師と連携するために何が必要なのか、自分自身で考えるきっかけにしてほしいと思っています。

コーディネーター  
公益社団法人東京都鍼灸師会  
会長 高田 常雄